

平成29年1月1日

発行所 瀬戸市西長根町10番地 瀬戸旭医師会 84 1155 発行人 黒江幸四郎
URL <http://www.setoasahi.com> E-mail isikai@setoasahi.com

今後の医療、そして社会補償

独立行政法人労働者健康安全機構 旭労災病院 院長 木村玄次郎
(瀬戸旭医師会 参与)

医療は急速に進歩し、毎年のように日本からノーベル医学・生理学賞を生み出すようになっていく。本来は極めて誇らしく喜ばしいところであるが、医療の現場では混乱が生じ始めている。新しい高額な医療機器や薬剤が次々と開発され、臨床の現場に登場するからである。

入院中は高額医療となり、どの治療法であっても、限度額までに負担は軽減される。ところが外来診療に移行すると総額に対する一定割合を負担する必要がある。そのため、入院と外来を通して考えると、同じ病気であっても治療法によって支払総額が大きく異なってくることもある。医療側は、治療法によって効果のみならず支払額が異なる事情を説明しながら治療法を決定して行かねばならない。一方、患者さん側にとっても深刻な選択を迫られる。これまでは、いわば医師のお勧めに任せておけば問題なかったが、今では、懐具合を加味して治療法を選択せねばならない状況になりつつある。日本人は、これまで皆が平等で、誰もが最高の医療を受けられたが、最新の治療法は極めて高額になってきたため、特定の患者さんに限って適応せざるを得なくなっている事情を理解する必要がある。

国は多額の借金を抱え、かつ毎年の社会保障費(医療費を含む)が税収の伸びを大きく上回っている。このままでは日本国が立ちゆかなくなる時が、そう遠くないと賢明な国民なら憂慮している。医療費を抑制するためには、どうすれば国民が理解し、納得して協力できるのか、議論を始める必要がある。まず、医療費抑制策として、どのような方法が考えられるのか、医療側から具体的な方法を提示すべき時期にある。例えば、平均寿命を超えた患者さんには高額医療を適応しない。必要なら自己負担とする。同様に認知症の方にはどうするのか、食べる意欲のない方への栄養補給をどうするのか、など。最終的には医師ではなく、国民や法曹界、政府で、この方法なら実施せざるを得ないとの合意形成を得る手法なら実現可能とも考える。勿論、倫理上、受け入れられないという考え方もあり得る。いずれにせよ早急に、国民間でのコンセンサス作りに取り込むことが重要である。長期的には、地域毎に医療機能や大型機器などに関する適正配置を見直す必要もあろう。

社会保障を考える場合、人間個人の責任についても議論すべき時期に来ている。機会均等の原則下で、誰もが教育を受け、仕事に従事できる支援制度を充実させる一方、それにも拘わらず、働かず生活保護に依存している人達をどうすべきなのか、妙案はない。個人的には、幼少時から寧ろ競争社会にすることで労働は人間としての務めであることを自覚させる教育が重要ではないか。そのためには、様々な価値観を持った若者を育て、社会で勝ち抜き共存する力を養成すべきである。例えば、東京大学の入学試験では、1割は成績順で採用するが、1割は生活保護家庭、1割は海外(先進国、発展途上国)、1割は社会人から、など多様な人材を育成し、多様な価値観を発揮できる社

会へ転換させる。また、東京大学出身者が東京大学の教授になれる割合も30%程度に制限し、どのレベルでも平等に競争する社会にすれば、皆が個性ある能力を発揮し、仕事に意欲を見出し働き続けることが可能となるのではないか。今の社会、余りにも過保護となり働くことから逃避できる社会になってしまっている。小さい頃から公平で平等な競争社会に慣れ親しむことが重要と考える。海外からの留学生からの刺激を受け、日本人学生も外国人と交わり、強い精神力を持つ若者に育つよう期待される。

もう一点、社会現象を考える上で、家庭環境が重要と思う。子供が健全に成長するには、幼児期に両親から可愛がられ、かつ善悪を躰けられることが必須である。この点は、動物社会でも注目されている。1億総活躍社会と言われているが、家庭での愛情がなければ一人前の人間に成長するのが困難である。母親でも父親でも、少なくともどちらかは、幼児期は保護者として、いつでも子供に愛情を注げる環境にあることが望まれる。この時期だけは、共稼ぎではなく両親の内いずれかが、子育てに専念できる仕組みを作ることが重要ではないか。小学校低学年児の学校教育も重要であるう。

何れにしても、日本の医療や社会保障は国力以上に膨張し過ぎていることは誰の目にも明らかである。どうすれば、限りある社会資源を有効に活かし、国として持続可能な発展ができるのか、国民一人一人が真剣に考える必要がある。次世代を担う健全な若者が育つ社会を維持することは、我々世代の責任である。医療従事者は特に医療制度について考え、社会に発信する義務がある。医師会は、毎年のように診療報酬について意見を発表している。その前に、ここで議論した医療保険制度についての見解を発表し国民が判断できる資料を示すことが医師会として信頼を得るためにも重要ではなからうか。

~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~